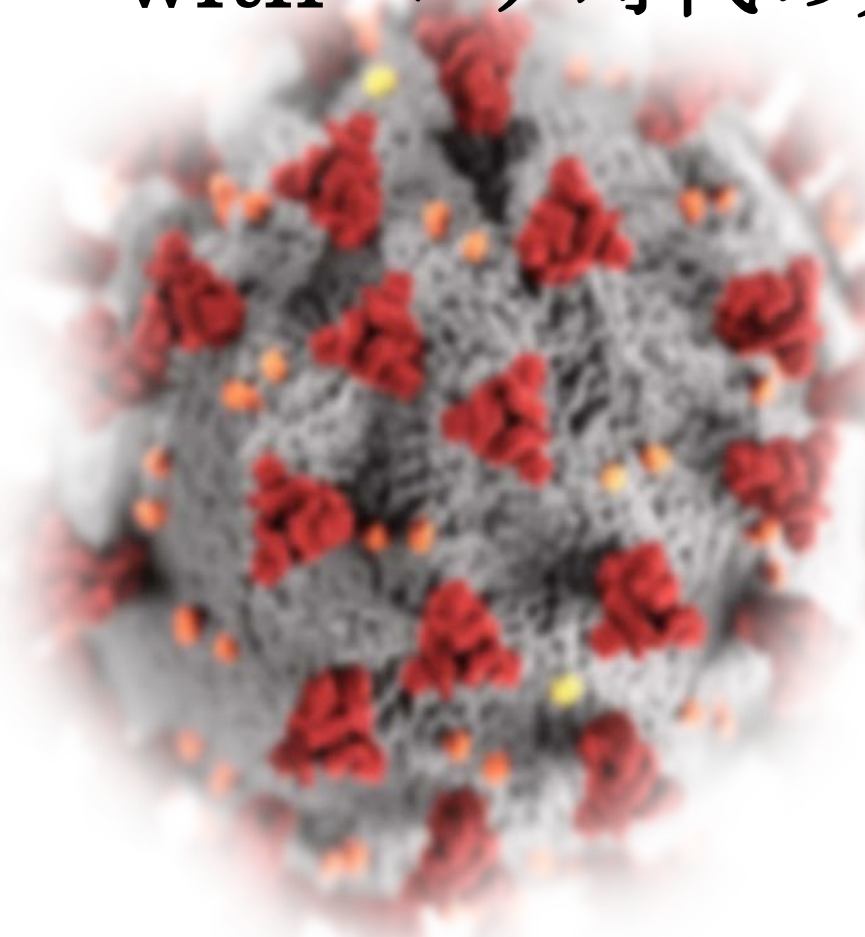


多死社会とQOD(死の質) ～withコロナ時代の介護産業とは



メディア勉強会@RIETI
2020年8月25日

藤 和彦
RIETI上席研究員
公益財団法人世界平和研究所客員研究員

新型コロナのパンデミックがなぜ世界経済に深刻なダメージを与えたのか

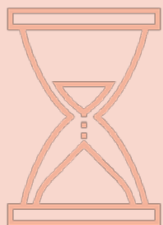


人類が初めて「経済を犠牲にしても、社会的弱者を救う」決断を下したから。

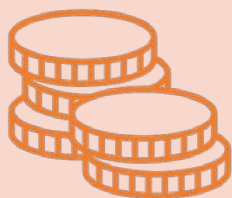


世界が注目する日本の介護施設での死者数の少なさ

コロナ禍で「死」の存在を突きつけられた先進諸国の人々



BLMや米中対立の影に潜む「死」への恐怖
(存在脅威管理理論)



日本人特有の「臨終コンプレックス」は、「死生観の欠如」の裏返し現象

→日本人は過剰に恐れている？ 冷え込んだままの「シニア消費」

多死社会の下で起きたALS嘱託殺人



使われた薬は安楽死用（筋弛緩薬）ではなく
終末期鎮静用（睡眠薬）

→ホスピスの現場で行われていた処方への
社会の監視が高まる？

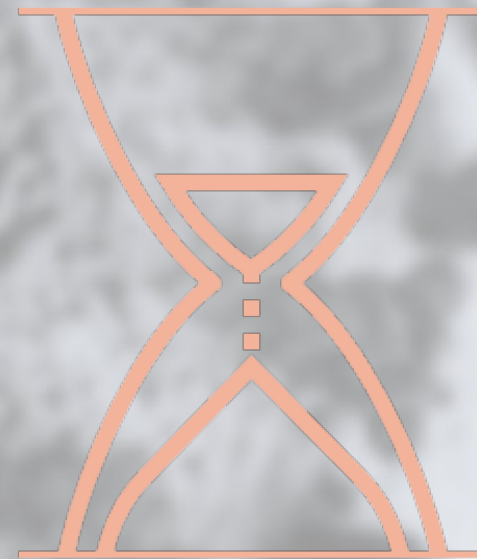


多死社会の到来で日本でも「安楽死」を求め
る声が高まる可能性

日本は超高齢社会から多死社会へ



昨年の死者数は138万人、
2025年に150万人を超え、
この状態が続く。



高齢者の関心は「医療・介護」から「看取り(QOD)」に移行
→高齢者の旺盛な貯蓄行動の背景には、死への漠然とした不安がある！

ターミナルケア・サービス産業が育たない理由



多死社会の到来が期待外れに終わった葬儀業界
→変わる「弔い」のあり方、「死生観」を語れない宗教関係者



介護従事者の離職率の高さは低賃金だけが要因
ではない
→「死」がタブー視され、意味づけできない日本
は、QOD後進国

「看取り士」という仕事



一般社団法人「日本看取り士会」(柴田久美子会長)

→需要が高まりつつある「在宅死」をサポート



「望ましい死」という新たな死生観(グリーフ・ケアが不要に)

→介護産業における新たな「価値」を提唱

人は生まれ変わるかもしれない (21世紀の「死生観」の確立)



ヴァージニア大学の「過去生記憶を持つ子どもたち」についての研究
→量子物理学は「体験記憶」の不滅の可能性を示唆？



日本人は「生まれ変わり」を信じてきた(袖すり合うも他生の縁)



「生まれ変わり」の信念は、心(スピリチュアル・ペイン)のクスリ



「生まれ変わり」の信念がもたらす世代間倫理の醸成



コロナ禍の世界大変動を乗り切るために

ご清聴ありがとうございました。

メディア勉強会@RIETI
2020年8月25日

藤 和彦
RIETI上席研究員
公益財団法人世界平和研究所客員研究員